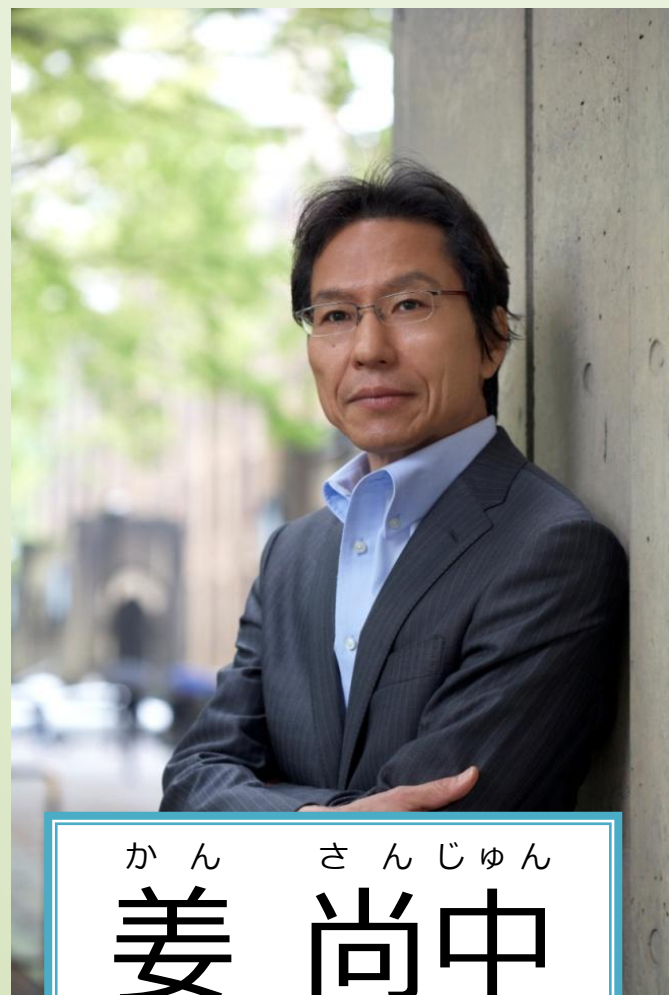
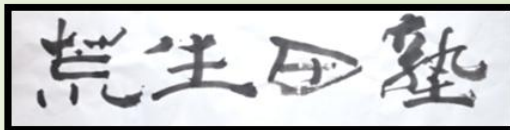


# 姜尚中 連続講演会！



かん さんじゅん  
**姜尚中**



## 第三回 荒生田塾講演会

**2月28日(土)** 午後3時より 姜尚中氏講演会

「人は何のために生きるのか」

※講演の後、奥田知志牧師(当教会牧師)との対談

**3月1日(日)** 午前10時半より

キリスト教講演会(礼拝)

「それでも人は生きる(仮)」

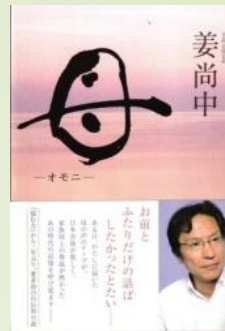
講師：姜尚中氏

※いずれも入場無料ですが、カンパ、献金を受け付けます。

席に限りがあるので、お早めにお越しください。

駐車場はありません。公共の交通機関をご利用ください。

政治学者。聖学院大学学長。東京大学名誉教授。  
『悩む力』、『母』、『心』など、著書多数。



**荒田塾とは、**この時代にあって「人は何のために生きるのか」を問い直す場所としての、現代における寺子屋です。「国家」「社会」「個人」のあり方が急激に変わる今、私達はいかに生きるべきか！街場に生きる人達との間で、共に語り合う場所を「軒の教会」に作りしました。

第3回目の講師である姜尚中さんは、夏目漱石の小説を題材にした著書や多くの講演会でこのように語っています。『明治の文明開化で急速に変わりゆく社会とそれに馴染めずに苦悩する小説の中の青年と、現代を生きる私たちの悩みは同じである。漱石が100年前に提示した課題に対する明確な処方箋はない。』

それでも私達は、この不条理に溢れる時代を生きていかなければならない。母(オモ二)の苦悩を見ながら、二つの祖国に自分を問い続けた姜さん。ご子息の死、3.11の震災で家族を亡くした家族との交流、様々な深い悲哀を心の底に残している姜尚中さんにこそ、今をどう生きるべきか、問いたいと思います。

【荒生田塾長 石山輝久】



## 2014年度 皆さんと「軒の下のものがたり」

軒の教会が誕生して初めての大きなイベントは、この教会の設計士

① **手塚貴晴さんを迎えての荒生田塾講演会(10/18)**でした。手塚さんは、講演会の中で『軒の下の発想は、はじめからこの教会の中にあった。私はそれを皆さんの日常に見出し掘り出したに過ぎない。私はそれを建築にした。ここから軒の下の物語を紡いで欲しい。』とエールを頂きました。 続いてのイベントは、② **秋の教会バザー(11/24)**でした。20年以上も地域の方から献品を頂き、共に育ててきたバザーには、広くなった教会堂、軒の下を埋め尽くすほどの来場者に溢れ、教会の扉が町の人達に大きく開かれた一日でした。そしてクリスマス前には、奥田牧師の盟友③ **茂木健一郎さんの荒生田塾講演会(12/13)**です。講演会後の懇親会でも茂木さんは熱かった！(写真) この講演会のキーワードは『利他とは「毛づくろい」から始まる！』でした。そして、私達の救い主イエスの降誕を祝う④ **クリスマスキャンドル礼拝(12/24)**です。イエスの救いはクリスチャンだけのものではない。小さきもの弱きもの、苦しみの中にある人達のための重荷をイエスが背負い、伴っていてくれることを、クリスマスの日に確認し、讃美歌を歌います。 礼拝後は⑤ **子ども達と町に飛び出しキャロリング**です。街角でロウソクを灯し讃美歌を歌うひと時、夜空の向こうに明日の希望(光)が見えます。 2015年のニューイヤーは⑥ **響ホール室内合奏団コンサート**で始まりまし

ました。楽団の方が本当に馴染みの曲から荘厳なアダージョの曲目で聴衆を楽しませ、感動の拍手が鳴り止まない。あるご婦人の言った『本格的なクラシックを近所の教会で聴けたことが嬉しくて・・・』の言葉が忘れられません。2015年度も軒の下の物語をともに紡いでいきましょう！





# エッセイ「暗い私—平和を築くために」

牧師 奥田知志

聖書は暗い—ずいぶん長くクリスチャンをしているが、それは一貫して私の中にある感覚だ。「そんなことを言うべきではない」と叱られるかもしれないが、事実である。

聖書の何が暗いのか。それは聖書に登場する人間が暗いということだ。「義人はいない」と聖書はあつさり宣言する。「正しい人など一人もない。全員罪人だ」と。本当に暗い。

確かに聖書の登場人物で口クナ人があまりいない。イエスの弟子、しかも筆頭弟子とも言えるペテロは土壇場で三度もイエスを知らないと言いつつ切った。伝道者パウロは、元々キリスト教徒を迫害していた人物であつて「ああ、自分はなんとみじめな人間か」と嘆く。イスカリオテのユダは言うまでもなく、初代の教会に属していたアナニヤとサツピラという夫婦は詐欺まがい。そもそも人類の始祖であるアダムとエバは「神になれる」との誘惑に負け禁断の木の実を食する。彼らの子どもであるカインは弟アベルを殺す。人類最初の殺人事件は親族間で起こる。義人と呼ばれたヨブさえも、不条理としか言いようのない苦難に見舞われ「なぜだ」と嘆く。何よりもイエスは十字架で殺され「わが神、わが神、なにゆえ私を見捨てたか」と絶叫された。

彼らは苦しみの中にいた。自分の弱さに嘆き、悪や罪が拭いがたく自分に付きまとつていくことを知つていた。望まない苦難や十字架を負わされた。だから総じて「暗い人々」だつた。しかし、そのような聖書の登場人物の中に私は私自身を見出すのだ。

「原爆の図」で有名な丸木位里（まるきいり）・俊（とし）夫妻は、広島、沖縄、南京、アウシュビッツをテーマとして人間の現実を描いた後、「地獄」の絵を描いた。その際、ヒトラー、東條など殺戮の責任者を地獄の図に描き、最後に位里さんが俊さんを、俊さんが位里さんを地獄の中に描き込んだという。「戦争を止められなかった私たちも悪い」との思いがそこにはあつた。暗く陰鬱とした話であるが、しかし人間として必要かつ「まともな感覚」を丸木夫妻に見出すのは私だけか。

昨今、私たちはそんな「暗い自分」を直視することを回避しようと努力してきた。頑張つて明るく振る舞つてきた。「あなたはあなたのままでいい」、「心配しないで大丈夫」と肯定的なメッセージを相互に言い合つた。それが「いやし」だと思つた。「そうさ僕らは、世界に一つだけの花。一人一人違う種を持つ。その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」とS.M.A.P.が歌えばなんだか安心できた。でも、それは本当か。あの歌をしがみつくように歌うことによつて自分（だけ）を肯定することで、結果自分に対する違和感が増していったのではないか。いや、「違う花かもしれないが、同じ根っこを持つている」と歌つた方が正直な気がする。「闇」あるいは「罪」と言う同じ根っこを私たちは持っているのだ。「そのままでいい」などととても言えない自分の現実がある。自分を真摯に見つめることは決して明るい作業ではない。それは底なしの深淵をのぞくような事なのだ。それが普段は隠している根っここの問題であり、私とあなたをつなぐ絆だ。

にも拘わらず、自分には「暗いもの」などまるで無いのかのように明るく振舞う。あるいは「自分が正義。あいつは悪。あいつは絶対赦さない。審きを受けさせる。報復する」などと元気に言つてのける。だが、気を付けて自分の本質を凝視するべきだ。相手に見出した同じ闇を自分の中に見出すことになる。しかし、それはチャンスなのだ。和解と解放へと私たちを向かわせる道だ。なぜなら「快活な自分」あるいは「正しい自分」という幻想的な幸福を追求し、それを演じ続けなければならなかった私たちは、つらかったのだ。誰かを「闇だ」と認定することで自分は「光だ」と言い張つた私たちは、実は自分の不誠実に気づいていたので。

苦悩する人間—「明るい」ではなく「暗い」人間こそが聖書の言う人間だ。それに「正直に生きて良い」と聖書は言う。無理して明るく生きなくてもよい、悩み苦しむ弱い人間が、あるいは罪人こそが人間らしいと聖書は言う。

二〇一一年三月一日は、人生が容易ならざるものであることを私たちに認識させた。笑えない日がある。そんな日は泣いてよい。

あるいはこの間、私たちは人間の闇を見せつけられた。しかし、それを他人事にしてはならない。暗く苦悩する人間に希望が宿ると聖書は言う。闇と罪を共通言語に変えよう。正直に自分の暗さを引き受け生きる者が、闇の中に輝く小さな光を見出す。聖書は言う。「光は闇の中に輝いている」（ヨハネ福音書一章）。光を見出すのは闇の住人なのだ。自らの暗闇を知る者こそが、平和を築くことができると思う。

## 第四回 荒生田塾講演会

愛する人を失ったとき—別れを生きるとは

5月16日(土) 15時～

一条真也氏：1963年、福岡県生まれ。本名、佐久間庸和。冠婚葬祭業(株)サンレー代表取締役社長。

『隣人の時代～有縁社会の作り方』、『無縁社会から有縁社会へ』(奥田知志他との共著)等、著書多数。



いちじょう しんや 一条 真也

## 今後の行事予定

### イースター主日礼拝

4月5日(日) 10時30分～

イースターおめでとうございます！

イースターとは、主イエス・キリストの復活をお祝いする日のことです。

共にお祝いしましょう！

皆さまのお越しをお待ちしています！



### 東八幡キリスト教会が様々なメディアで取り上げられています！

雑誌「新建築」12月号に10ページにわたって美しい写真とともに取りあげられました。

また、「JA 96号(2014年建築年鑑)」にも2014年を代表する建築の一つとして掲載されました。

NHK Eテレ「こころの時代」にも

1時間番組として取り上げられる予定です！

本放送：3月8日(日) 午前5時～6時

再放送：3月14日(土) 午後1時～2時



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40  
電話/FAX (093) 651-6669

Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com

牧師：奥田 知志 石橋 誠一  
協働牧師：藤田 英彦 森松 長生

### 定例集会

- ・主日礼拝(一般の部) 毎週日曜午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部) 毎週日曜午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会) 毎週日曜礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会
  - 夜の部 毎週水曜日午後7時30分
  - 昼の部 毎月第3水曜日午後1時

### 牧師へのご相談 随時受付中！

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう！牧師には守秘義務がありますので安心して相談ください。

電話 093-651-6669